

# 手作りの 温もりを感じる ガラス工芸体験

「やきものまち」として古くから知られる愛知県瀬戸市。最近では陶芸家とともにガラス作家の活動も盛んです。そんな瀬戸の一角にあるガラス工房で、吹きガラスによる作品作りにチャレンジしてきました。



思ったよりも簡単に  
体験できる吹きガラス。

旅先の沖縄で目にした琉球ガラスが印象に残っているという橋本七美さん。「とつても楽しみに来たけれど、ガラスをフーツとふくらませる時、息が続くか心配!」という橋本さんに、指導してくださる空西あかね先生は「そんなに肺活量がなくても大丈夫ですよ」と声をかけてくださいました。今回訪れたバルト工房では、コップやピアシヨッキなど、作りたいものをその



今月の体験さん

橋本七美さん (58歳)

旅行に映画鑑賞、そしてマジックの披露と多彩な趣味をお持ちの橋本さん。借入金や住宅ローンなど、長年におわたってろうきんとお付き合いいただいています。



多少のいびつさも  
手作りならではの味わい。

まずは吹き竿の先端で溶けたガラスを巻き取ります。これに息を吹き込み、熱いガラスが垂れて形が曲がらないよ

うに竿をくるくると回しつつ「ベンチ」と呼ぶ作業台に着席。「紙りん」と呼ばれる重ねた新聞紙をぬらしたものを右手のひらにおいて、左手で竿を回しながら右の手のひらの上で作品の形を整えます。続いて熱いうちに手早く「ハン」という道具で口を作ります。いったん窯に入れてガラスをあたたため、取り出したら鉄の台の上で色つぶを表面に付着させ、また窯で熱めます。最後にベンチで「紙りん」や木製のコテを使って形を整えたら、ほぼ作業終了。竿から切り離し、ゆっくり温度を下げる特別な窯に入れて約一日おけば作品の完成です。

場で選ぶことができます。さまざまな作品見本を見たり手に取ったりして、迷いながら選んだのは「輪挿し。作るもののだいたいの形が決まると、先生は実際の作業をしながら作業工程と道具の使い方を説明してくれます。ただガラスを吹くだけでなく、思っていたよりいろいろな工程があるんですね」といながら、橋本さんは渡されるままに左手に軍手を、右腕にアームカバーをつけてスタンバイ OK! いよいよ体験開始です。



中も先生が手を添えてくれるので、「右手と左手で違う動きをするのが大変だったけれど、思ったより簡単にできました」と橋本さんはニコリ。ガラスの「輪挿し」が、橋本さんの暮らしに彩りを添えることになりそうです。

## “ ガラス作品制作風景 ”

美しく透き通った吹きガラス作品。その一つひとつには、作り手の熱い思いが吹き込まれています。



色とりどりのガラスのつぶ。作り手の個性で選べます。



平らな鉄の台に並べた色つぶで模様づけ。



熱い熱いガラスを、この吹き竿で巻き取ります。



真っ赤にたぎる窯の温度は、1,000℃以上だとか。

ぜひ、また  
体験したいです!

